

えておるところでございます。

議長（倉又 稔君）

吉川議員の一般質問の途中ではありますが、昼食時限のためここで暫時休憩をいたします。

午後0時01分 休憩

午後0時01分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

吉川議員。

1番（吉川慶一君）

以上で、一般質問を終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で吉川議員の質問が終わりました。

それでは昼食時限のため、ここで暫時休憩をいたします。

失礼いたしました。まだ少し時間がありますので、関連質問がございましたらお聞きします。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

昼食時限のため、ここで暫時休憩をいたします。

午後0時02分 休憩

午後1時00分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

相馬御風先生の顕彰について、通告書に基づき、質問をし提言してまいります。

御風先生と申し上げるべきところを、御風と表現するかもしれませんがお許してください。

1、地方でのクリエイターの先駆者、相馬御風先生の顕彰とまちづくりについて。

ことし2016年は、相馬御風先生が糸魚川に帰住（Uターン）して100年目の年です。

その帰住の理由には謎もあるとされていますが、ふるさと糸魚川の豊かな自然の中でひたむきに生きる人々に囲まれ、より人間らしく、そしてより自分らしく生きていきたいという強い思いと決意があつたのと推察します。

以来100年が経過し、政治では地方創生が叫ばれ、地方への移住や創作活動を伴う暮らし方が日本全国の各所で実践され、注目を浴びています。

そこで、ずっと以前に糸魚川に帰り住み、時代の先端の創作活動に取り組み、なりわいとした、言うなれば、地方でのクリエイターの先駆者である相馬御風先生の功績を振り返り、その知恵や行動力を学ぶこと、御風先生を「知る・学ぶ・伝える」これからの糸魚川市の顕彰を考えること、そして糸魚川市が目指す翠の交流都市におけるまちづくり事業の展開、特に、御風の生活空間であった糸魚川市大町の御風宅、糸魚川駅北口の商店街や料理店などを活用した、交流人口増大を企てるのが今回の質問の趣旨です。

なお、テキストとして、金子善八郎先生の著書「相馬御風」と、相馬御風先生の著書「良寛さま」（平成19年度復刻版）、これを資料に何う点もありますので、よろしく願いいたします。

(1) 過去10年の糸魚川市の相馬御風顕彰事業の主なものについて伺います。

平成19年より発行されていた歴史民俗資料館「相馬御風記念館」だよりについて。

歴史民俗資料館企画展平成18年「良寛さまと相馬御風」、平成19年「相馬御風と早稲田」、平成20年「小川未明と相馬御風」、平成25年「相馬御風作詞校歌展 心のふるさと、われらが母校」、平成26年「相馬御風と芸術座 カチューシャの唄を中心に」、それぞれの成果、記録公開について。

平成25年写真展「御風を訪ねた著名人たち」の成果、記録公開について。

平成27年相馬御風ふるさと帰住・良寛研究百周年イベント「御風さんの、いろんなしごと」の成果、記録公開について。

(2) 最近の市民の相馬御風顕彰事業の主なものについて伺います。

御風の作詞した代表曲を収めたCDの発売について。

ミュージカル「オデュッセイア」の上演について。

バタバタ茶の実演について。

(3) 帰住100年目に当たることし、予定している相馬御風顕彰事業について伺います。

(4) 長年の課題であった新潟県指定史跡 相馬御風宅のリノベーションについて伺います。

(5) 歴史民俗資料館の展示・プレゼンテーション・接客談話の工夫について伺います。

(6) 歴史民俗資料館に隣接する糸魚川市民図書館での展示・プレゼンテーションの工夫について伺います。

(7) 糸魚川市役所庁舎での展示・プレゼンテーションの工夫について伺います。

(8) 糸魚川駅自由通路、駅観光案内施設ジオパルでの展示・プレゼンテーションの工夫について伺います。

(9) 北陸新幹線開業1周年記念イベント、新幹線で糸魚川へ来るお客様をターゲットとしたプレゼンテーションの工夫について伺います。

(10)交流人口増大・経済効果を目的とする、糸魚川駅周辺を「御風テーマパーク」あるいは「まるごと御風まちづくり」としての活用について伺います。

(11)相馬御風顕彰の方法を、今日的な価値観で見直し、地域のすぐれた資源として生かすことは、地方創生において糸魚川ならではの特色あるまちづくりの大きなテーマです。今後は、御風が校歌「都の西北」を作詞し、母校でもある早稲田大学等との連携を強化し、また糸魚川市民の皆さんのさまざまな思いが反映される「相馬御風を生かすまちづくり」のシステムをつくるべきと思いますが、この点について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

教育長（田原秀夫君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、歴史民俗資料館の事業や所蔵資料の紹介など御風の顕彰を目的に、会館30周年の平成19年から23年まで発行いたしました。

2つ目につきましては、所蔵する御風資料などを、毎回秋に公開し、それぞれ500人から600人の入場者がありました。

3つ目につきましては、御風宅の新たな活用を模索するために開催したミニ写真展であり、約650人から見学していただきました。

4つ目につきましては、市民会館でのステージイベントに約200人、市役所での講演会に約50人、歴史民俗資料館の企画展に約400人の入館者がありました。

なお、御風顕彰の1つとして、平成25年4月から新潟日報朝刊の1面に、「文化の記憶」と題し、御風の短歌や歌詞を連載しており、好評を得ております。

2点目の1つ目につきましては、平成26年度に相馬御風名曲選制作実行委員会が、カチューシャの唄などを収録したCDを作製し発売をいたしております。

2つ目につきましては、御風を主人公としたミュージカルとして、市民の出演者を中心に平成26年に上演し、また、御風の妻に焦点を当てたストーリーで続編となる「オデュッセイア2」を、昨年12月に上演しております。

3つ目につきましては、バタバタ茶の会の皆様、御風宅や各種イベントなどで実演しており、今後も協力支援してまいります。

3点目につきましては、御風が糸魚川に帰住して良寛研究を始めたことから、本年6月に全国良寛会糸魚川大会、秋には講演会などを開催して御風の顕彰を進めてまいります。

4点目につきましては、より適切な保存と積極的な公開・活用を図るため、改修復元工事を新年度に実施いたします。

5点目につきましては、わかりやすい展示に努めるとともに、入館者の希望に沿った解説や対応を工夫してまいります。

6点目につきましては、御風に関する図書は、市民図書館2階の郷土資料コーナーで閲覧できるほか、歴史民俗資料館の企画展などの際には1階でも展示をしております。

7点目につきましては、企画展などの際に、御風や関係資料の紹介を市庁舎でも掲示し、歴史民俗資料館や御風宅への誘導を図ってまいります。

8点目につきましては、自由通路では御風を紹介するタペストリーを掲げており、ジオパル内や糸魚川駅出入口では、歴史民俗資料館や御風宅への案内表示をしております。

9点目につきましては、本市出身の音楽家の朗読による「汽車に寄する思」を御風宅で流すことなどを計画しております。また、駅自由通路ではデジタルサイネージの映像表示を活用して、イベントや企画展の案内を工夫してまいります。

10点目につきましては、駅周辺には御風宅をはじめ、御風関係の歌碑なども点在しておりますので、関連するまちづくり団体と連携して、レトロな町屋をめぐるコースなどの設定をするなど、積極的な活用を図ってまいります。

11点目につきましては、御風宅の改修復元とあわせ、早稲田大学や関係団体などとこれまで以上に連携を図り、御風顕彰を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度の質問によりまして、所管の課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、2回目の質問です。きょうはじっくりまいります。

歴史民俗資料館の入館者数の10年間の推移、数字がわかれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

ここ10年間では、約2万3,000人の入館者がございました。おおむね年間1,500人から2,500人の間で推移をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

資料館の運営費というのは幾らでしょうか。人件費を含んで、この10年間の数字がわかれば、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

平成17年度から21年度までは、年間約1,400万円。平成22年度以降につきましては、

約900万円の人件費を含む管理運営費となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

運営費が減ってきているということは、要するに入館者数も減ってきていると。つまり、経費をかけられないというふうに解釈していいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

職員体制等につきましても、職員の全体的な配置もございますので、管理運営費については減になっておりますが、たまたま期を同じくして、入館者も減じているというのは現状であると思っております。それを、なるべく多くするように努力してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

平成19年に、歴史民俗資料館だよりが発行されておまして、その第1号に会館30周年に当たりという記事がありました。その中で、入館者減少の理由を、価値観の多様化と志向の変化、博物館・美術館の増加による利用者の分散、オープン後、年月が経過し目新しさがなくなった、そして、少子高齢化の進展と地方自治体の財政が苦しいとして、入館者数を劇的にふやすことは不可能だというふうに書いてあるんですね。と同時に、資料館は積極的に地域に出向き、地域の歴史文化を多くの市民に知ってもらい、市民と一緒に地域づくりに参加することが資料館のあるべきだとしています。

以来、資料館の対応はどうだったか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

御風の資料はもちろんです。歴史民俗資料館、あるいは長者ヶ原考古館などが所蔵します資料を館外に持ち出す移動展の開催ですとか、美術品などを中心としました特別展、これを歴史民俗資料館で開催するなど、資料館の周知と資料の普及に努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番(田原 実君)

じゃ、これまでの企画展について再質問します。

通告書に示した企画展、幾つかありましたけども、その成果とそれから記録公開の状況。先ほど、1回目の答弁ではこの記録公開の状況がなかったんで、そこをちょっと教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長(磯野 茂君)

平成18年の「良寛さまと相馬御風」という企画展がございました。御風の良寛研究の足跡を、改めて見直し功績を再評価するものですが、出雲崎の良寛記念館ですとか、民間所蔵の資料などをあわせまして、御風の資料を展示しました。

また、平成19年の「相馬御風と早稲田」は、校歌制定100年、大学創立125年を記念しました企画展でありました。早稲田大学ですとか、早稲田文学等とのかかわりを中心に、中央文壇における活躍や交流のあった人々などを紹介しております。

平成20年の「小川未明と相馬御風」は、日本のアンデルセンと称される、上越市出身の小川未明と御風との交流を紹介した企画展でありました。

いずれの企画展も、約1カ月間の期間中、それぞれ600人の入館者がありました。

記録でございますけれども、刊行物としてはまとめておりません。しかしながら、ホームページ上で現在、閲覧できるように作業を進めているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

企画展の内容は、いずれもすばらしかったと思います、私も拝見しました。しかし、企画展が終わると、それっきりだということになっていないかなと。企画展の後、その都度、資料をまとめて閲覧できるようにしたり、あるいは情報公開・発信をしていくという取り組みが欲しかったと思いますけど、そこはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長(磯野 茂君)

企画展の記録につきましては、今ほどお答えしたとおりで、最近はまとめておりませんけれども、ホームページ上で閲覧できる作業を進めております。また、企画展開催によって蓄積された書簡ですとか、遺墨などの解説に大いに役立っており、今後、予定されている刊行物の基礎となる重要な資料になるものというふうに考えておるところであります。

13番(田原 実君)

課長、元気に答えてください。お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

早稲田大学、それから日本大学などへの情報提供というのは、きちんとできているか伺いたいと思います。

私は、歴史民俗資料館は、これまでのような収蔵品の陳列や資料編さんのオフィスから、情報社会に対応した情報センターに生まれ変わる必要があるのではないかと考えています。収蔵品も情報もコンテンツはちゃんとあるわけですよ。すばらしいものがあると思う。課題は、これをいかに見せていくかです。大学と連携しSNSを使って、資料館をしっかりと変えていく必要があると思いますがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

早稲田大学とは、これまでも応援部の合宿ですとかグリークラブの公演が糸魚川で行われておりますし、近年では大学の社会連携プログラムやマニフェスト研究所との連携など、多面的につながりを深めているというふうに思っております。

SNSの活用としましては、歴史民俗資料館のフェイスブックのページを立ち上げておまして、イベントの紹介・書籍・テレビ放映・作品の紹介など、資料館のPRを進めております。そのような面からも、大学の連携と情報発信を進めていければというふうに考えております。

また、日本大学へは特段の情報提供ですとか連携を、これまで行っておらないという状況でございますけれども、両大学とも市内にOB会の組織があるということを知っておりますので、情報発信や継続的な連携について、模索をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

「カチューシャの唄」知音都市交流を、ちょっと伺います。

昨年、この知音都市交流の調査に、鳥根県の浜田市議会から13名の方がおいでになりました。島村抱月先生の出身地であります。改めて、知音都市交流の経過、それから現状と課題、浜田市議会の調査の様子、教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

知音都市交流は、大正初期に一世を風靡した劇中歌である、日本の流行歌第1号とも言われております「カチューシャの唄」、これを縁といたしまして、島村抱月・松井須磨子・中山晋平、そして御風のそれぞれの出身地である、浜田市・長野市・中野市・糸魚川市の4市4都市において、平成元年から交流を行っております。年数回、交流事業が行われておりますけれども、会員の高齢化の影響などで会員数も伸び悩んでおりまして、また、市民号以外への参加が少ないという状況であります。

浜田市議会の調査につきましては、知音都市交流の取り組みについて、改めて説明をいたし情報交換をした後、歴史民俗資料館をご視察をいただいております。また、糸魚川市民数名との懇談も、その際に行われております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

調査の際は、担当課のお世話で知音都市交流のすばらしさが理解できたと、浜田市議会の皆さんも大変喜ばれていたようです。感謝申し上げます。

ただ、そのときに企画展、「相馬御風と芸術座 カチューシャの唄を中心に」の資料というものを有効に活用したかどうか。これからもそういった視察等の調査があったおりに、資料のちゃんとした活用というのが必要になってくると思います。御風についての情報をいつも提供できる、それから満足のいく学習ができる、それからさらに、御風への関心を高めていただけるという、そういう工夫が必要だと思いますけど、これからどう取り組みますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

「相馬御風と芸術座 カチューシャの唄を中心に」という企画展で展示いたしました資料の一部は、現在も展示をしております。それらを見ていただいておりますし、ちょうどその時期は、別の企画展ですが「御風さんの何これコレクション」というものを開催しておりました。御風のあまり知られていない側面も、その際にごらんいただけたのではないかなと思っております。

それぞれの企画展の成果や、その際に展示したものなどは、その後の通常の展示においても、なるべく反映させていきたいと思っておりますし、知音都市等の都市ではSNSを通じたそれぞれ情報発信を行っているところから、今後、情報交換ですとか連携を、それぞれの都市と深めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）



知音都市間で、そのSNS等を活用して交流をしていくということに、これからはシフトしていくんだろうと思います。よろしく願いいたします。

では続けて、「御風を訪ねた著名人たち」という企画展、写真展がありました。この御風のステータスを理解するには、御風と一流の著名人との交流という切り口はよかったと思います。誰でも知ってる著名人というと、会津八一、それから野口雨情との交流があったということですけど、この機会にご紹介いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

会津八一につきましては、新潟市出身の歌人・書家で早稲田大学を卒業後、文学部の教授に就任をし、美術史を講じております。御風とは大学の同級生であり、良寛研究を通じ、最晩年まで親交を結んでおります。

野口雨情につきましては、茨城県出身の詩人であり、童謡の作詞家でありまして、同じく早稲田大学に進学をしております。雨情は、北原白秋、あるいは西条八十と並びまして、近代童謡の基礎を築き、童謡「七つの子」や、「赤い靴」など、作詞をしております。

雨情は、昭和10年11月に御風宅を訪問したおりに、その後、能生に赴きまして、能生弁天岩の童謡というものを作詞をしており、能生小学校にはその掛け軸、また弁天岩の曙橋のもとにはその歌碑が残っておるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

いろんな御風の功績というものが、もう少し市民に知れ渡るといふふうに、私も願っております。そういったことから、今回も質問させていただいておりますけども、一流の芸術家もたくさん訪ねてまいりました。例えば、北大路魯山人、それから澤田政廣、こういった芸術家とさまざまなエピソードがあるやと聞いておりますけども、少し教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

北大路魯山人は、御風と同年の明治16年に京都市で生まれております。書家や陶芸家など、多岐にわたって活躍した異色の工芸家として有名であり、また美食家としても名をはせました。昭和13年2月に、良寛の遺墨を鑑賞するため、御風宅を訪ねております。その同年、7月、8月にも続けて来訪しておりまして、8月には、糸魚川の横町海岸でとれた鯛を買い求めて、御風のために

みずから腕を振るったということでもあります。

澤田政廣は、熱海市出身の彫刻家です。仏像彫刻が非常に高く評価をされており、昭和54年に文化勲章を受章しております。大正12年の関東大震災によって、弟子であった石塚裕康のいる糸魚川に疎開をしております。このとき、御風は帝展で初入選したばかりの面識のない澤田を、手厚く援助をしております。これがきっかけで交流が始まり、御風は日本固有の仏教美術の研究を進めたというふうに言われております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

御風宅が会場の写真展には、私も行きました。ただ、その写真の点数が少なく、また解説も非常に簡単だったということで、せっかくの企画なのに、何か出し惜しみをしているんじゃないのかなというふうにも感じてきたんですけども、この御風に関する写真資料というのは、どのくらいあるものなんでしょうか。おわかりになれば、教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

御風宅の積極的な公開、活用の試みとして開催したものでありまして、展示可能なスペースが限られるということから、ミニ企画展としたものであります。御風本人が写っているものは190点ほどございます。ほかに、遺墨・歌碑・絵はがきや他者の写真、これが150点ほどございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

結構あるんですね。相馬御風の晩年の肖像写真に、すばらしいものがあります。ちょっと、資料として出ささせていただきたいと思います。

これがそうであります。岡田紅陽という写真家の撮影らしいんですが、糸魚川で撮ったものだというふうに使われているらしいんですけども、この岡田紅陽という写真家について、わかっていることがあれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

新潟県の出身で早稲田大学を卒業しており、御風の10年ほど後輩に当たるということでありま

す。富士山の写真をライフワークとした写真家で、千円札に描かれている富士山は、彼の写真をもとにデザインされたものであるということでもあります。御風とは、良寛を通じた交流があって、歴史民俗資料館には、昭和17年・21年に撮影された御風の写真があります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ここで、私からの提案なんですけども、御風の生涯を、いわゆる写真アルバムという形でつくってみてはどうかと。印刷・製本・販売ということが大変であれば、何冊か昔風のアルバムのような形で洋風の写真集として御風宅とか、それから関係の施設に置いておけば、それを手に取って、見て、楽しみながらといいますか、御風をしのぶ仕掛けになると思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

映像資料のデジタルアーカイブ化や公開につきましては、常に検討材料としては上がっているところであり、具体的な日程についてお示しできないところではありますが、発行について検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、平成27年の企画展、「御風さんの、いろんなしごと」について伺いたと思います。

このチラシがありまして、そのチラシの中に小さくなるんですけども、写っているものがありました。ちょっと資料を出します。

御風さんの笑ってる顔に、「地方人は創造する につかり」というて入ってるんですよ。先ほどの、この御風さんの写真もいいんですけども、何かこう、非常に親しみを私は感じた。それから「につかり」というところが、何か気がきいてるなと思ひまして、このキャッチフレーズ、どういうふう考えたのかなということ、ちょっと知りたいなと思っておるんです。この「地方人は創造する」という部分で、私は相馬御風をマルチクリエイターだというふう考えるヒントになったわけなんですけども、ここら辺、何かネタがあったんでしょうか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

「地方人は創造する」というフレーズでありますけれども、新潟日報の朝刊1面、文化の記憶欄の平成25年8月4日に掲載をされております。

また、それらをまとめたこのような「相馬御風 ころの旅」にも掲載をされておまして、もとの言葉は「都会は現在である。地方は未来である。」という言葉が、「地方人は創造する、都会人は享楽する。」とも言われていることから、そのフレーズを引用したというものであります。

「にっかり」につきましては、担当職員の「にっこり」では、余りにも当たり前なので、少しアレンジをしたというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ありがとうございました。最近の動きとしまして、「着ぐるみの御風さん」というのがありました。これも、子供たちが御風の存在を知るきっかけとしては、これまでにないセンスだと感じております。若い世代が、御風を伝えるチャレンジをしてくださってるのかなというふうに、私は評価をしております。しかしながら、以前から御風さんをご存じの方というと、やはり御風さんというものを軽々に扱うものではないというお考えを持っていらっしゃる方もいるやに聞いております。しかし、何事も新しい価値をつくる時というのは、風も起こるものであります。その風を御して、後世に伝えるチャレンジというものは、続けていかなければなりません。この点、教育委員会の認識はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

変化が激しい、大変激しい昨今の社会経済情勢などを敏感に捉えながら、時代あるいは時節にマッチした手法によりまして、御風顕彰に取り組んでいく必要があるというふうに考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

わかりました。ただ、昨年10月11日、市民会館でのイベントについては、ちょっと苦言を申し上げたい。

内容はいいのに、900人収容の市民会館に来たお客様が、私から見れば30人ほどだったと、非常に少なかったと思います。先ほど200人というお話でしたけど、出演された方が大勢いらっしゃいましたから、そういう方も客席に回ればそうかもしれないけど、本当に純粋にお客様で見えた方は30人くらいだったんじゃないですかね。非常に少ない、残念です。これ、どうしてでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

会場の規模ですとか、企画あるいは見込み入場者とのバランスがまず悪かったことと、周知もおくれてしまいました。これが、大きな理由であるというふうに反省をしているところであります。この反省を、今後の事業実施に、しっかりと反映していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

教育長にも伺いたいと思うんです。御風顕彰に、市民も市職員も、それから子供たちも来ていない状況だったと、私は捉えたんです。内容はいいのに見てもらえない、御風顕彰の危機というものを感じております。

関連施設を日ごろ見せていただきますと、歴史民俗資料館は、いつも展示室の明かりを消して、ひっそりしていると。図書館は、御風関連資料がどこにあるのか、非常にわかりづらいです。これ、2年前も一般質問をして、そのことをお願いしたんですけども、余り改善されていない。そして、先ほどのように、市民会館のイベントはがらがらだった。教育委員会全体の御風顕彰、これ、弱いんじゃないかというふうに感じますけども、その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

昨年10月の市民会館での御風100周年プレイベントでは、内容も趣向を凝らしたものであり、出演された方々、団体の方の協力をいただきながら開催をさせてもらったものでありますが、ご指摘のように参加者が少なく、私も申しわけなく感じたところでございます。今後につきましては、御風会や木かげ会などの皆さんが、地道に、また熱心に活動を続けていらっしゃるということで、そういう関係する方々のご意見も伺いながら、子供や若い世代へ関心を持ってもらえるような事業、イベントへのPRについて、改善に努めてまいりたいと思っております。

また、施設の不行き届きなところの部分のご指摘もいただきました。お客様が気軽に、またわかりやすく気持ちよくご利用いただけるように、今後の対応について、心配りをしてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番(田原 実君)

その教訓を生かして、ことしいよいよ本番ですね、100周年のイベントなんですけども。これ、どういう内容なのか、少し紹介していただきたいし、どんな気持ちで取り組まれるか教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長(磯野 茂君)

お答えいたします。

ことしになりますけれども、御風は帰住とともに良寛研究を始めたことから、ことし良寛研究100年目に当たるということでございます。それを記念いたしまして、6月に全国良寛会糸魚川大会を開催いたします。大会では一般公開の記念講演や、アトラクションがありますので、多くの市民からご参加いただけるよう、実行委員会の皆様とともに事業のPRに努めてまいります。

また、御風が故郷に帰って著した、還元録も御風を知る上で非常に重要な著作でありますことから、これに関する講演会も、秋に計画をしているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

ここを1点、全国良寛会の方たちが糸魚川に集うということは、どんな意味、あるいはどんな意義があるというふうにお感じですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長(磯野 茂君)

お答えいたします。

全国良寛会の大会は、39回目に当たりますけれども、上越地域での開催は今回が初めてとなります。全国良寛会では、良寛の研究、顕彰の最大の功労者である御風の地元、糸魚川での開催を熱望していたと、それを受けての開催であり、待ち望まれていた大会であるとも言えます。全国からご参加の会員はもちろん、市民の皆様にも御風の功績を、ぜひ知っていただく、またとないビッグチャンスであるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

ビッグチャンスだと。つまり、良寛と御風について、知る・学ぶ、それから伝えるいい機会だというふうに私は感じたんですけども、さて、地元の子供たちですね、御風と良寛さまをどのように

学んでいるのかなということが、気がかりでございます。

先ほど、一般質問の1回目の中で申し上げましたけども、いろんな御風さんの著書があるんですけど、こういったものを小中学校のふるさと学習等で、使っていくのかどうするか、その点を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

御風の著書「良寛さま」につきましては、各小中学校に整備をしております。また、各学校で各3年生以上が持っております「まるごと糸魚川」には、御風の短歌・言葉がその各ページに載っておりますし、御風のページにもその功績として、良寛を紹介したということについても記載をされております。総合学習等を使いまして、御風についてを学ぶことで、その功績として良寛についても学ぶということがされている学校がございますが、全部の学校で、御風を使った総合学習が行われているというわけではございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今の課長の答弁は、現状を言っただけでしょう。私は、ビッグチャンスのをときを捉まえて、どういうふうに進めますかと伺ってるんですよ。本が置いてあるだけで、それではだめですよ。何をやるかということ、やはりお考えいただいて、お答えいただかないと。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

ふるさとの偉人として、大きな功績のある御風でありますので、その御風の帰ってきてからの100年という大きな節目の年であります。それにつきまして、各学校で記念すべき年であることにつきまして、校長会で指導し、そしてそれについて学ぶ機会をぜひ、持ってもらいたいというふうに教育委員会として指導していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

先生が学ぶだけじゃないんですよ、子供たちが、よく知るといことですよ。その取り組みをどうするか、もうちょっと時間ありますんで、何とか実現していただきたいなと思います。よろしく願いいたします。

では、市民の顕彰活動について伺ってまいります。この通告書にあります、CDですとかさま

ざまな取り組みがありました。市からは、どのような支援があったか、また課題は何か考えてありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

CDにつきましては、80枚ほどを買い取りまして、全ての園・小・中・高等学校・公民館・図書館に配付をいたしました。また、実行委員会から委託を受けて、歴史民俗資料館で販売をしているところであります。

課題ということでございますが、やはりなかなか皆さんから聞いていただけていないと。いまいち売り上げといたしますか、皆さんから聞いていただいている状況に、まだ至っていないというところが現状であるというふうに考えております。

13番（田原 実君）

ミュージカルとバタバタ茶も一緒に。

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

失礼いたしました。

ミュージカルにつきましては、市民の出演者の皆さんにとりましても、もちろんご来場いただきましたお客様にとりましても、御風という存在を認識いただける絶好の機会になったのではないかなと思っております。

上演に当たりましては、練習会場の確保ですとか、スタッフの宿泊等の手配、チラシ・ポスターの印刷など、さまざまな面で相談・協力・協議をしながら進めて、上演に至っております。今後また、上演したいという気運が高まりますれば、関係者や団体などと相談・調整をしながら、同様に取り組みたいというふうに考えております。

バタバタ茶につきましては、やはりこちらも、その普及と後継者の高齢化というところが課題であるというふうに思っております。バタバタ茶の会は、小中学校の総合学習などにも出向いておりますので、ふるさと教育の一端を担っているというふうに思っています。そうした活動を、支援してまいりたいというふうに考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

先日、「こかげ」の創刊100周年記念、相馬御風作詞の歌を聞く会というのに出かけました。地元新聞でも、大きく取り上げられておりました。御風作詞のレコードを聞いて、声楽家の歌唱を聞いて、詩吟の会の皆さんによる相馬御風短歌「大空を」を吟じる、そういった場面がいろいろとございまして、御風のいわゆる仕事を音楽で楽しく学ぶことができました。音楽は、何と云ってもわかりやすいし感動いたします。このレコードコレクションと蓄音機の解説ですとか、それから御風が、早稲田校歌をラジオで聞くのを楽しみにしていたというエピソードも聞けまして、こういった取り組みがこれからもあれば、市民並びに市外からお見えになった方に、御風を伝えることがで



きるいい素材というか、方法じゃないかなというふう感じてきたんですけども、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

私も、前半だけでありましたけれども、当日、拝聴させていただきました。議員おっしゃるとおり、非常にすばらしい内容であったというふうに思っております。御風の顕彰は、御風会・木かげ会・教育委員会が独占をしているというわけでは、決してございません。自由に顕彰活動を行ってほしいという思いがありますので、このような活動を支援し、また連携を深めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

この機会に伺いたいんですけど、御風が作家としてなりわいを得ると。その技術があったわけですけども、いわゆる文学者が、都会でなくて田舎で文芸で収入を得る仕組みというのは、どういうものだったのかなと、非常に興味があります。今であれば、いろんな情報のシステムがあったりとかあるんですけども、当時は手紙ですとかそういったものしかないし、鉄道だって新幹線があったわけじゃないですよね。どうやって打ち合わせをしたりして、最後、収入をどういうふうに得ていたかということに興味があるんですけど、何か調べてありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

具体的な資料があるわけではございませんけれども、新聞や雑誌等のメディアの原稿執筆料、あるいは校歌や童謡等の作詞料、刊行物の印税や同人向けの雑誌の会費で、生計を立てていたと考えられます。また、関係する書簡ですとか各地・各家に伝わる御風の書などから、御風が交流していた相手ですとか、御風の意外な一面を推察することができ、その中には協力者・支援者・賛同者を募って事業を進めるということにたけた御風の一面もあるというふうに考えて、これはあくまでも推察でありますけれども、そんなふう考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

地方に住んで、作家として活動して収入を得るその方法というのは、これから明かされていくんでしょうかね。いつの日にか、そんな企画展をやってほしいなと思います。

では、今後の顕彰の工夫と展開について、再質問いたします。

相馬御風宅のリノベーションについて伺います。御風宅の概要、建物の特徴、年間の入館者、運営経費など、また今回のリノベーションで、御風の何を誰にどのように伝えようとしているのか、そのコンセプトについて教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

御風宅は、昭和3年、御風が施主となりまして建築をされておりまして、昭和27年12月10日、新潟県の史跡として指定をされました。御風の業績を永久に保存するため、当時の姿のまま残しております。間口が狭くて奥行きが長い、伝統的な木造町屋の構造で、明かり取りと換気のために中庭もあり、中ほどと奥に2棟の土蔵があります。また、玄関前の庭先には、雪国に特徴的な雁木もあります。建築した昭和初期の和風建築の特徴を、よく残している建物となっております。

入館者につきましては、ここ数年、2,000人を超える状況であります。運営経費につきましては約100万円でありまして、大半が管理委託料です。

改修工事の内容ですけれども、主に耐震・耐火の強化になります。市民・県民のために、より積極的な公開・活用ができるよう工夫するとともに、御風の創作と生活の場であり、すぐれた近代和風建築である建造物を長く保存・公開して、後世に伝えることを目的として改修を行いたいものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ここで、2つ目の提案なんですけれども、私からは相馬御風宅の空間には、3つの工夫をしていただきたい。

1つは、テル夫人がご存命だったころの相馬家の一家団らんの様子が理解できる空間。もう1つは、執筆や作詞活動に忙しくしていたことがわかる空間。もう1つは、御風の時代のメディアを体験できる空間。これは、奥の2つの蔵を使って音楽が楽しめる、そういった工夫をしていただきたい。この施設のリノベーションというのは、非常に重要になってくると思います。

そこで、行政の一存で進めるのではなくて、市内の歴史・文学・音楽に理解がある、そういった市民の方とアイデアを出し合ってつくっていただきたいと願います。この市民とのコラボレーションということなんですけれども、ぜひ、お願いしたいんですけれども、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、特に土蔵の改修、そしてその活用というのは、改修復元事業の大きなポイントであるというふうに思っております。御風作詞の歌を視聴したり、ミニコンサートや講演会などが開催できるスペースとして、あるいは当時の糸魚川町と相馬家の変遷などの紹介も含めまして、関係される皆様と調整を図っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

お願いします。

歴史民俗資料館と図書館と市庁舎、これは非常に近接しているわけですね。この3施設で、もう少し、相馬御風をクローズアップするような、何か仕掛け・プレゼンテーションというののできないかなというふうに考えます。その点、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

市民図書館での御風関連図書につきましては、よりわかりやすいように、ただいま整理を進めているところであります。

また、市庁舎につきましても、本年の全国良寛会糸魚川大会や歴史民俗資料館の企画展などに合わせて、工夫をしていきたいと思っております。連携した工夫で、PRをしていきたいと思っております。

資料館の内部につきましても、手がかけられるところから改善をしてみたいというふうに考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

2年前にも、図書館の御風関係の資料等は、もう少しわかりやすくということで、原課長がお答えいただいたですね。この前、見に行ったんですけども、私からすると、ちょっとわかりづらいかな。もう少し、ここ、相馬御風先生の著書です、あるいはこれが原書ですというプレゼンテーションがあってしかるべきではないか。良寛会の皆さんが、もし図書館を訪れたときに、やっぱり糸魚川は御風さんを大事にしているわということが伝わるような、そういう資料の整理の仕方って必要だと思うんですね。この「にっかり」の小さな顔をどっかに張ってもいいじゃないですか。そういうことを、ちょっとやっていただきたいけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃいますように、2年前に同じ内容のことをご意見いただきました。今現在、やっておりますので、今、ご意見いただいたものを、十分反映できるように、また歴民も含めて一緒に協議をして進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

2年前の質問、もう1つなんですけど、新幹線で糸魚川へ来るお客様をターゲットとしたプレゼンということで、2年前に新幹線に備えられている雑誌「トランヴェール」、これへの掲載というかを、考えたいという答えだったんですけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

「トランヴェール」への掲載につきましては、多額の費用がかかるということから、当時、断念をしております。しかしながら、北陸新幹線開業後、さまざまなテレビ番組などで、糸魚川が取り上げられるようになっておりますので、多様なメディアを活用して、相馬御風顕彰を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

テレビでも取り上げられるということで、ちょうどそのタイミングが来てる。これから、私の質問は、駅周辺を御風テーマパーク「まるごと御風まちめぐり」として、活用することについてに移っていくんですけども、この「相馬御風とヒスイ」というようなテーマで、東京のテレビ局で取り上げていただいて、放送があったというふうに聞いているんですけども、これネットで知ったんですけども、そこら辺、行政のほうでわかっている情報があれば教えていただきたい。また、それは、どういう経緯でそういうふうになったのかということも知りたいんですけども、お願いできますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今のお話は、ことしになりまして、東京都千代田区の飲食店、これは糸魚川アンテナショップの1号店でございましたけども、この店主の方からご縁をいただきました。糸魚川応援隊のご協力で結ばれたものというふうに思っております。

放送局は、東京MX、東京メトロポリタンテレビジョンでございまして、9チャンネルでございます。この放送局は、昨年の4月から毎週日曜日、午前10時から11時の間、主に60歳以上のプラチナ世代向けの情報番組として、角野卓造さんと篠原ともえさんが、親子という設定で登場するものでございます。ここで、糸魚川を取り上げていただきました。先週の2月21日、ここでの糸魚川は前編でございますけども、「カチューシャの唄とヒスイの旅」ということで、15分程度、放送いただきました。

番組の流れの一部をご紹介いたしますと、カチューシャの唄の作詞者、相馬御風先生が生まれ・愛し、晩年を過ごした新潟県糸魚川というところから始まるわけでございますけども、世界的にも珍しいヒスイの産地であり、その発見にも相馬御風はかかわっていたというふうな流れでございます。相馬御風先生が糸魚川に戻られまして、良寛の研究や郷土史の研究をする中から大発見があったと。昭和初期までは、日本にはヒスイがないと思われ、大陸から入ってきて大陸から来たものと思われていたその郷土史を研究する中で、ヒスイの玉を首に巻いていたとされる奴奈川姫の伝説から、糸魚川にヒスイがあるのではないかというふうなことを推測されて、小滝川の近くの方が発掘調査をし発見したというふうな流れでありまして、歴史の壮大なミステリーを解いた、相馬御風の推理がなければ、日本で唯一、世界でも有数の質の高いヒスイは、我々の目に触れることはなかったというふうな流れでございました。最後に、角野卓造さんが、ドラマチックな人生を持つ糸魚川に1回、調べにいつてみたいなというふうなことで終わるといふ流れでございます。

今週の日曜日の28日には、また、後編がございまして、「糸魚川、地形が豊かさをもたらすまち」ということで、フォッサマグナ、それから2008年のジオパークの認定、それから温泉、それから新鮮な鮮魚というふうなことで、糸魚川に、ぜひそういうものを食べにいききたいというふうな流れで放送されるというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今の説明では、なりわいネットの話ですよ、最初は。それが、東京のテレビ局に結びついて糸魚川の紹介番組ができて、今度はその中で、「糸魚川に行こうよ」というようなそういう話だと、これ、米田市長が思ったとおりのストーリーになってるんじゃないでしょうかね。市長、よかったですね。

ただ、そういう番組が紹介されると、本当に糸魚川は注目を浴びると思います。それで来ました、御風を訪ねてきましたけど、行ったけど御風宅閉まってるよとかそういうことがあってはいけないと思うんですよ。また、町ぐるみで御風さんを顕彰しているという、そういうことも必要だと思うんですけど、市長、その点、これからどういうふうにお考えになりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく今、議員ご指摘のとおり、おいでになったらそのような状況になっていないということになったら、非常に魅力が半減、あるいは半減どころかマイナスになっていくようなところがございいますので、そういうことのないようにしていきたいと思っておる次第でございいます。ですから、御風さんを、我々はやはりしっかりと顕彰していけないといけないと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

私は、この一般質問の場も情報発信の場だと考えているんです。それで、御風と駅周辺を、もっと際立たせて経済効果を出すように、市も前向きに取り組んでほしいと思います。

調べてみれば、使える御風のエピソードというのはさまざまあると。調べれば、御風にかかわるお店もたくさんあると。作品を見たりエピソードを聞く、そういう楽しい経験ができると。

先ほど、魯山人の話が出ておりましたが、これを題材とした取り組みもいろいろとあるようです。この辺、担当課が、もしご存じであれば、いろんなことを全国に向けて情報発信をしていただきたいというふうに思うんですけど、課長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

魯山人が訪れたときの料理ということで、「魯山人料理再現と街歩き」といった取り組みが行われております。この取り組みの事業主体は、糸魚川街なか魅力アップ推進会議という団体であって、地域の皆さんが何とか御風を使って、まちおこし、そして、お金を落としてもらえようという取り組みをしたいという中で進められております。魯山人が糸魚川を訪れた際に、鯛料理を使って一献を交わした記録をもとに、この魯山人料理というものをやっております。市内には、駅周辺の3店舗で料金は3,240円だそうですけども、提供をされてるということであります。糸魚川の北口をおりますと、約1時間ぐらいで御風・奴奈川姫・雁木、そして造り酒屋といった見どころを堪能することができます。こうした中で、糸魚川を味わっていただいて、そして糸魚川でお買い物をしていただいて、糸魚川でお食事をとっていただいてといった取り組みを、今、ご指摘のように、いろんなメディア等を使いながら進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、課長からお話しいただいたことを、私、地図につくってきました。要するに、自分で調べた

ものを落とし込んだということなんですけども、今、伺って改めてそうだなと思うんですけど、糸魚川の駅がありまして、こちら海岸です。ここに御風宅がありますよ、こちらのほうが市役所がありますと。そして、北口のほうにはさまざまな御風を訪ねるそういったものがあるということで、大体20カ所ぐらいになるうかと思うんですね。

きょう、申し上げたいことは、この糸魚川というところを、そして相馬御風を使って、これからのまちづくりというものを、進められないかということなんです。私のアイデアは、御風の母校、早稲田大学などの大学と連携して、大学生とそれから糸魚川の若い人と、それから御風をよく知る人皆さんで、この「まるごと御風のまちめぐり」、それからまちづくりというものを進めていただきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

レトロな町屋などをめぐるコースの設定に当たりましては、そのような大学との連携ですとか、若い方のご意見なども伺いながら、そのような設定に当たっていききたいというふうに、文化振興課としては考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、ちょうど根知地区で早稲田大学と社会連携プログラムの事業に取り組んでいて、また3月の創生フォーラムでも何か発表があるというふうに伺ってるんですけど、市長、そうですね。

根知地区だけでなく、御風顕彰まちづくりにも力をおかしいたいて、より立体的なつながりができたらなというふうに思います。

その創生フォーラムの講師、早稲田大学の名誉教授の北川先生が、以前、糸魚川で講演されたおりに、糸魚川には、親不知・相馬御風・谷村美術館という、ほかにないすばらしいお宝があるけれども、ちゃんと生かしていないんじゃないですかと、そういうふうに私には聞こえるご指摘がありました。

かねがね、私もそう考えていたので、私、昨年の夏、早稲田大学を訪れて、相馬御風が早稲田でどう情報化されているか、感じてきました。校歌の作詞者であることを全ての学生が知っているわけではありませんし、御風が糸魚川の出身者であることはほとんど知らない。これは、やはり情報発信が不足していたのかなと。だからこそ、御風をテーマに大学と連携する必要があるんじゃないかと考えます。御風顕彰を今日的な価値観で見直して地域資源として生かすことは、糸魚川ならではの地方創生のテーマになると、私は思います。

今後は、校歌をつかった早稲田、それから日大等の連携で、相馬御風を生かすまちづくりとして、糸魚川に学びの場の仕組み、もし名前をつけるとすれば、駅周辺をキャンパスに見立てた「御風大学」というものをつくるべきだと思います。市長、これ、北川先生に一度、お話ししていただけない

でしょうか、いかがなものですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

相馬御風の偉大さというのは、今、田原議員がご指摘のとおり、非常に我々糸魚川の住民にとっては、素晴らしいものであると思っておる次第であります。しかし、いかんせんやはり、時代がかなり経過してきておる中において、市民の中においても忘れ去られておるところが大きい部分がございます。そして、いろいろ今、ご提案いただいた点についても、本当にもっともだと思っておるわけであります。

そういう中において、相馬御風をさらにそれで集客をしようとする、なかなかやはり相馬御風の価値観というものも、今現在、日本全国の中においてどれだけのものになるかというのは、なかなかはかり知れないものがあるわけではありますが、反面、やはりそんなに忘れ去られているところが大きいのではないかなということを考えたときに、我々はもっと、やはり本質を進めていかなくてははいけないかなと思っております。

今、ご指摘のように大学ということになってくると、学びの場というところが強くなる感もあるわけありますので、そうしますとやはり、糸魚川市民が今、短歌に対してどうなんだと。やっぱり、一番そういうところも大事になってくるのではないかな。

我々の、今、姉妹提携を結んでおります塩尻市とか、また、新幹線で結ばれております高岡市あたりは、そういったものをしっかりと出してるわけがございますので、そういったところも、我々もう少し学んで、もう一度この再認識をして、市民がその辺をもう少し理解をする中で進めていくながら提案をしないと、ご存じのように北川教授は、非常にきつい指摘をする方ございまして、何をやるんだというところがやっぱり来るわけがございますので、我々といたしましても、そういったところをしっかりと絞り込んで提案をし、協力依頼をしていくことが必要かなと思っております。

今も非常に厚意にさせていただいておるわけでございますので、声のかけるのは非常にかけやすいわけありますし、今回も気楽においでいただける部分もあるわけあります。そのような提案をするときには、我々もやはり腹をくくって、こういうことをするんだから応援せえというぐらいまでに持っていきたいと思っておりますので、その辺をまた、みんなでもとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

御風先生が亡くなりまして、ことしで66年。多くの市民の顕彰活動のおかげで、多くの方が関心を寄せ、その功績を学んでいます。御風の短歌が、今も新聞で取り上げられています。ただ、これまでどおりで、どこまで伝えていけるかなという疑問はあります。



御風がテレビで取り上げられましたが、糸魚川を文化都市たらしめているのは、御風が糸魚川で暮らしたからではなくて、その顕彰に地元の多くの人に取り組んでいるからであります。御風を学ぶために、市外からも人が糸魚川を訪れてくるからです。それでこそ、糸魚川の宝だし、そこをこれからどう伝えていくかというところだと思います。

先ほど、市長からいろいろ伺いましたので、これからの取り組みに関しましては、ご期待を申し上げます。よろしくお願いいたします。

最後に、今回の私の質問ですが、地方でのクリエイターの先駆者、相馬御風先生の顕彰とまちづくりについて、これは極めて個人的な気づき・アイデアであります。しかし、この議会でお話することが、私なりの御風先生の顕彰です。

糸魚川に住み、創作活動のアイデアを持ち、そのアイデアをなりわいとするスキルを持ち、スキルを生かすためのネットワークをつくった御風先生という先駆者をモデルに学んで、都会の人や若い人が糸魚川へ移住して、できれば御風宅の近くの伝統的な町並み、町屋に住んで、糸魚川のまちづくりをしてくださるということを願っております。終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に保坂悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

保坂議員。〔6番 保坂 悟君登壇〕

6番（保坂 悟君）

公明党の保坂悟でございます。発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、一般廃棄物最終処分場問題の今後について。

昨年末、一般廃棄物最終処分場適正化工事が完了しました。地元補償については、これまでのものと、今後のものとの整理すべきと考えます。

そこで、以下の各項目について、補償内容や今後の取り組みについて伺います。

- (1) 水銀を含むばいじんを埋めた公害防止協定違反について。
- (2) クローズド型（屋根つき）新最終処分場の地元補償について。
- (3) 大野区民の善意を踏みにじった道義的責任について。
- (4) 大野地区に対する補償内容一覧表の作成について。

2、日本一の子どもづくりについて。

(1) 子育て支援について

ブックスタート事業の目的と意義はどうか。

事故防止のためのチャイルドビジョンの取り組み状況はどうか。

がん予防として中学生のピロリ菌検査導入はどうか。

今季の子供インフルエンザ助成の効果はどうか。

病児保育の進捗状況はどうか。

学童保育の延長時間の検討結果はどうか。

(2) いじめ対策について。